

No	実行団体名	本拠地	団体URL	活動対象地域	事業名称	事業概要	選定理由	助成額	助成期間
1	にじいろほっかいどう	函館市	https://nijirohokkaido.iimdofree.com/	渡島/函館市	社会的居場所を核とした働き方と暮らし方の共生の実現～地域コミュニティにおける障がいのあるLGBTQの受容を目指して	<p>近年、LGBTQという言葉が日常的に広がっている。地方自治体でのパートナーシップ制度の導入が全国的に広がっていることは、LGBTQ当事者の安心と可視化に繋がっているが、あくまで法的な保証がない状況では、十分とは言えない。同時に無知としか言いようがない差別発言が、主に政治の現場から発せられている。LGBTQに対する差別を禁止すること、また同性カップルをはじめとして、現在婚姻ができないLGBTQ当事者への法的に保証することは、人権擁護の観点からも早急に行われるべきであると考えます。</p> <p>当団体は①交流イベント開催による当事者の孤立の解消②講演会などイベントによる啓発、この2つを活動の大きな柱としている。</p> <p>本助成事業でまず核になるのは、居場所の整備である。どこにいつ相談していいのかわからないといった悩みを持つLGBTQ当事者にとって、恒常的なコミュニティスペースが設置されることは、これまで以上に充実したサポートが期待できる。運営にあたっては、敷居の低さと安心感、アクセスしやすい雰囲気を意識したハード面、スタッフのスキルアップも居場所事業の維持のために大切なことである。</p> <p>また、LGBTQの課題に限らず、存在が潜在化し、社会的に排除されがちな、あらゆる人々への支援を行うことも重要な事業である。行政や企業、地域の人々や関係機関と連携することで、より社会課題にフォーカスしたテーマの講演会、当事者や家族、地域の人々に対する様々なイベントを開催し、他者とのつながりや社会参加の意義を体感してもらえる機会をつくっていききたい。</p> <p>当団体の本事業、私たちができる支援とは、こちらが何かを“してあげる”ことではなく、対象の当事者が自分の意思でその一歩を踏み出すための足場を作ることだと認識している。事業に関わる人々、そして函館・北海道に暮らすすべての人が、個の尊重のもとで共生できる社会の実現に貢献していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点の設置や相談対応など5つの募集テーマをよく反映した事業内容である。 ・当事者としての長年の経験やアイデンティティを前面に打ち出した活動に特色があり、道南で3年の事業に取り組むことで飛躍が期待できる。 ・4年目以降の継続に向けては地元当事者団体とも連携して行ってもらいたい。 	18,476,410	2023年10月～2026年2月
2	特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port	札幌市	https://l-port.net/	石狩/札幌市 上川/旭川市	望まない孤立に陥りやすいLGBTQ当事者のセーフティネットから、社会参加を望むLGBTQ+当事者のサポートまで/主に障がいのあるLGBTQ+を対象としたワンストップ支援の構築	<p>①SNSによる分野横断での専門的相談窓口の体制拡充 セクシュアリティと障がいのこと、どちらも安心して話せるような相談窓口の確立を目指す。現在はセクシュアリティに特化した相談窓口として設置している「にじいろtalk-talk」について、セクシュアリティに関する専門相談としての立ち位置はキープしたまま、それまでセクシュアリティについての悩みが大きくて障がいに関する支援や社会資源に触れて来なかったり、安心して話すことができなかつた方でも差別されることなく必要な専門的知識や社会資源にアクセスする手伝いができるような窓口への体制拡充を行う。</p> <p>②よりインクルーシブなLGBTQ+やそうかもしれない人向けの居場所作り事業 札幌市で開催しているLGBTQ+当事者やそうかもしれない人向けの少人数型居場所「にじいろ談話室」について、個々の特性・障がいに合わせた柔軟な対応が可能な場への改革を行う。また、都市部に偏りやすいコミュニティ事情の解消のため「出張！にじいろ談話室(仮)」と題した旭川市での居場所事業実施と、その土地で交流会を行いたいと考えている潜在的な活動主体の発掘を行う。将来的にはその土地においてLGBTQ+当事者が人的つながりを得る場所として自走できるように支援する。</p> <p>③障がい、LGBTQ+と就労、防災のワークショップ実施とパンフレット等の作成、関係機関への配布 障がいを持つLGBTQ+当事者として就労している方を招いてのワークショップと、防災の専門家や実際に避難所を運営する行政機関と連携した災害時の対応に関するイベントを行うことで、複数のマイノリティ性を抱えながら働くこと、被災した時にどんな現実と直面するのか、ということについてのロールモデルを獲得する機会を創出する。また、障がい支援・LGBTQ+支援の視点双方からの他団体との意見交換を実施し、得られた知見を広く発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の実績から当事者とのつながりも多く、その目線を活かした事業提案となっている。 ・防災の視点を取り入れたたり、二拠点展開を想定されたり様々な角度から提案をされていた。 ・これらの事業を実施することで、今後事業を継続していくための専任職員の配置など組織基盤の充実を期待したい。 	17,017,541	2023年10月～2026年2月
3	特定非営利活動法人地域生活支援ネットワークサロン	釧路市	https://n-salon.org/	釧路を拠点に全国	カミングアウトから自己表現へ 真の社会参加創造事業/共生社会のアバンギャルドと探求する社会変革	<p>セクシュアリティにおいて何らかのマイノリティ要素がある人たちが認知理解に凸凹がある人々など、強い個性や特性、属性を持つ人々はいわゆる社会的マイノリティとして、日常生活や社会生活において困難を抱えることが多い。その大きな理由は平均的で標準的な多数派の人々のために社会の様々な仕組みや様式、常識が構成されているため、フィットしないどころか、排除を生み出している背景にある(社会モデルの発想)。しかし、現実では本人のマイノリティ性=課題とみなされることも多く、機会からの排除により生じる困難が自己責任とされ、努力や過剰な社会適応を求められる状況も根強い(個人モデル)。近年ではそうした人々を理解、支援するためにLGBTQや発達障がいなど理解されやすいカテゴリーや表現が普及しているが、一方でそうしたカテゴリーは当事者をいわずらに対象化することで、当事者から力や機会を奪ってしまったりと、社会として根本的に取り組むべき課題を分かりにくくする側面がある。</p> <p>本事業はセクシュアルマイノリティと発達障がいのダブルマイノリティに代表されるような複数のマイノリティ要素をもつ人々を共生社会のアバンギャルドとして重要な役割と位置づけ、それらの人々を感じる生きづらさや困難をよく聞き(相談・研究活動)、ともに学び(研修活動・啓発活動)、解決の手立てのために試行事業(住まいの場の提供、労働環境整備や調整の促進)することを通じて、今の社会にとって根本的に必要な課題は何かを問い直し、それを明らかにするプロセスを通じて、社会変革と公正社会を推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTQというアイデンティティを前面に打ち出さないことは、挑戦的かつ当事者目線でとても非常にユニークな切り口であり、釧路という地方からの取り組みにも期待が出来る。 ・既存の事業の仕組みを活用した汎用性のあるツールの開発が評価できる。 ・道外団体との連携や道外在住者も対象とすることは理解ができるが、今回の事業を機に道内/市内団体との連携も進め、市内の当事者にもアプローチをしてもらいたい。 	17,398,905	2023年10月～2026年2月